

市民と行政による協働のまちづくり②

# 平成15年度 教育行政執行方針（要旨）

## はじめに

教育改革元年ともいわれた平成14年度、教育界は、大きな改革のうねりの中でさまざまな課題に直面しました。

学校週五日制の完全実施、新しい学習指導要領の施行に伴う多様な教育活動のあり方、中央教育審議会における教育基本法の見直しや全国市長会における分権型教育行政のあり方、さらには、構造改革特区の提案に見られる、これまでの枠を超えた弾力的な教育の展開など、教育の根幹のみならず、現行日本の教育体系において地殻変動ともいえる改革の動きが、進められようとしています。

教育委員会は、これら教育を取り巻く情勢の変化や改革の動向をしっかりと受け止めるとともに、明らかになった課題をひとつひとつ確かめながら、本年は、登別の教育の将来的な展望確立のための研究を深める年にしたいと考えています。

とりわけ、分権型教育の推進にあたって避けて通ることのできない学

区制の問題や小中連携を踏まえた六・三制の検証、あるいは二学期制の課題などについては、市教育研究会や校長会・教頭会と連携して研究を深めてまいります。

また、同時に、子ども一人ひとりに応じたきめ細かな教育の展開や体験的学習、課題解決的学習などへの取り組みなど各学校における教育課程の編成と展開を支援するため、教育委員会指導室の態勢を強化することにしました。

## 主な取り組み

### 学校教育

完全学校週五日制のもと新しい学習指導要領が施行されたことは、これまでの知識偏重と言われた教育から『生きる力』の育成を目指し、基礎・基本を大切にされた総合的な人間形成の場としての教育へと大きな一歩を踏み出したものと理解しています。

また、学校週五日制は、地域での人材育成に向けた学校・地域・家庭

の連携の重要性とともに、それぞれが等しく人材育成を担うという新たな時代の始まりと受け止めています。当市には、各中学校区『子ども地域交流プラザ』や各地区『子供をまもる会』などの活動、PTA、おやじの会の取り組み、さらには、市内の各団体が連携する『ふるさと広場実行委員会』の活動など、情熱をもつて子どもたちと関わりながら育成に尽力されている多くの市民のみなさんがいます。



幌別中学校区『子ども地域交流プラザ』主催の『どろんこまつり』

これらの多彩な取り組みは、地域における教育力の低下が懸念される中にある、登別ならではの市民力の発現として貴重な取り組みと認識しています。これらの取り組みがより一層有機的に機能するよう、各学校における積極的な情報提供を促してまいります。

また、『開かれた学校づくり』は、

学校が地域のみなさんに信頼され、共に子どもの育成を担う協力者としての関係を確立するための不可欠な取り組みです。

これまでの学校評議員の活用に加え、外部評価も視野に入れた学校評価制度構築に向けた取り組みを促すとともに、保護者や地域のみなさんに向けた情報誌の発行を支援してまいります。

また、『教育情報センター』を拠点に各学校のホームページによる情報発信機能を高めてまいります。



登別温泉小学校のホームページ

### 教職員の資質向上

教育の成否はその直接的な担い手として日々子どもに接し、その人格形成に大きな影響を与えている教員の資質に負うところが大きくあり、新学習指導要領のもと、教員には、これまで以上の指導力の向上が求められています。

教職員が子どもにとって魅力のある、そして教育専門職としての力量